

# 海と川の繋がりを理解して 山形県全域でごみを減らそう!

山形県は全国トップクラスで海洋ごみが流れ着く環境となっている。その背景として県内流域面積都道府県NO.1の「一級河川」最上川の影響が考えられる。また、月山等各山々を超えていかないと海に行けないといった地形と物理的な距離から海に対する問題意識の差が生じている。川は海に繋がっており、内陸部に住む人々にも海ごみ問題を考えるきっかけを創出する必要があった。

今年度の施策では、沿岸部だけでなく内陸部のイベントと連携すること、WEB・SNSを活用すること、出前授業を内陸部でも実施することでこれまであまり関わりがなかった層に向けて、海ごみ問題について提起することができた。また、3年目を迎える調査事業では介入措置を行うことで、大幅にごみの量が減少する結果が得られた。

その他事業：スポGOMI、海ごみキャラクターモデル、WEB・SNSを活用した行動変容モデルなど

## ★2023年度 実施状況について★

### 河川ごみのモニタリング & 教育機関連携モデル (調査と対策)



- 概要と目的**
- 過去の調査、検討結果を踏まえた車運転者に対する調査の実施
  - 河川におけるごみの実態解明と対策の効果検証
- アピールポイント**
- 介入措置の実施後に約80%の大幅な減少傾向が見られた。
- 効果**
- 指標とした数字 事前事後のごみの総量
  - 検証方法 フラッシュライトの設置、看板の文言変更 等
  - 見られた成果 約80%の減少傾向が見られた

- 概要と目的**
- 県内小中学生で山形の海ごみについて学ぶ出前授業を実施
  - 内陸の子どもたちにも海ごみへの理解を深め、考えてもらう
- アピールポイント**
- 教材中に実施学校周辺のホットスポット調査の内容を追加した。
- 効果**
- 指標とした数字 県内小中学校3校で実施
  - 見られた成果 遊佐中学校、舟形小学校、千歳小学校の沿岸地域と内陸地域へ出前授業を実施 出前授業後に学びのアクションとして清掃活動等を実施

### 行政巻き込み・自走化を見据えたイベントモデル

- 概要と目的**
- 海ごみについて学び体験できる「海洋ごみを考える日」を実施
  - 海ごみについて学びアクションに繋げるきっかけを作る
- アピールポイント**
- 渚の交番や加茂水族館と連携し、5テーマの体験・学びを図った。
- 効果**
- 指標とした数字 イベント参加人数
  - 見られた成果 各連携の結果により、昨年度より参加者の増加が見られた。(食:キッチンカー、体験:加茂水族館等)



### 飲食店・他エリア連携モデル



- 概要と目的**
- 寒河江さくらんぼウォークや市内のラーメン店との新たな連携
  - 海ごみ問題の意識についてこれまで関わりが希薄な層へのアプローチ
- アピールポイント**
- 県内外参加者の海プロ事業を知らない層にもアプローチができた。
- 効果**
- 指標とした数字 参加者数、参加者属性 等
  - 検証方法 アンケート
  - 見られた成果 イベント参加者(各地域ごと)の海プロ事業の認知度調査 等

### 海ごみゼロウィーク

ごみ拾い参加人数 701人 箇所数 5箇所

#### アピールポイント

沿岸部や内陸部といった県内の幅広いエリアで清掃活動を実施した。参加者は行政や企業、大学生や小学生等各年代を巻き込むことができた。上記ウィーク期間外でも清掃活動を行い、秋のウィーク期間にはWEB施策も開始。



### メディア露出

#### メディア露出本数

137本(応援動画10月放送分までを含む)

#### アピールポイント

各イベントにおいてNスタやまがたでのテレビ放送やTBSNEWSDIGでWEB媒体での掲載、そして荘内日報等の新聞といった幅広いメディアでの露出があった。



ON AIR